

**連盟第8回総会……盛況
菊地洋一さん講演に50名が参加**



4月22日反原発自治体議員・市民連盟第8回総会は議員・市民50名の参加で開催されました。東海第二原発をはじめ老朽原発の再稼働を止める取り組みや、7月15日-16日予定の第6回「福島を忘れない！シンポジウムと現地視察」など、新年度の方針を確認しました。

菊地洋一さんから原発の建設に関わった経験で得た貴重なお話をお聞きし、滋賀県高島市の是永宙議員、阿部功志東海村議員から現地での取り組みを報告いただきました。

※人事など詳細は、添付の資料をご覧ください。

6月期末手当期 カンパをお願いします

2017年度の繰り越し金は9,340円でした。再稼働を止めるため30キロ圏自治体への要請・請願など全国に行動を拡大します。ご協力をよろしくお願いいたします。

**関西ブロック
第2回定期総会
ご案内**

にちじ：7月22日（日）午後1時30分～4時30分
ばしょ：高槻市立総合市民交流センター(クロスパル高槻)5階 視聴覚室
資料代：500円

◎記念講演 **菅野 清一** 福島県川俣町議会議員
— 帰還が始まった！原発被害自治体の現状 —

東電福島第一原発事故から7年、国による福島の「復興」アピールの下で「帰還政策」が進められています。福島の現状、そこに暮らす人々の想いについて、原発事故避難者訴訟・山木屋原告団長でもある菅野さんに語っていただきます。

◎特別報告 **高島 美登里さん** 上関の自然を守る会共同代表・一般社団法人上関まるごと博物館代表理事

上関原発に反対し、「上関の自然を守る会」として、日本生態学会・日本ベントス学会・日本鳥学会などと

**4/22 大飯原発4号機再稼働反対！
関電本店包囲に700人が集う**

大飯原発4号機再稼働を進める関西電力への怒りの声が結集。関電本店前は旗やノボリ、プラカードであふれ、700人が参加しました。

主催者挨拶に立った福井県民会議の中嶋哲演代表は、「関電のみならず国会を大包围しよう」と訴え、連盟会員でもある木幡ますみ福島県大熊町議のメッセージをご子息が紹介し、福井県おおい町猿橋巧町議から反原発議員がおおい町議会でゼロから1人へ、美浜町議会で1人から3人に拡大したとの報告を受けました。

連盟関西ブロックからは、木村真大阪府豊中市議が登場し、「議会では反原発は少数だが、市民の多数は原発反対だ。市民の常識に原発再稼働はあり得ない。まともな世論を反映させるため頑張ろう」と訴え、大きな拍手がありました。

協力し、上関原発予定地の長島・田ノ浦や周辺の上関海域の希少性生物多様性について調査、発信を行っています。

◎報告

- ・若狭現地から **木原壯林**さん(若狭の原発を考える会)
- ・隣接自治体から **是永宙** 滋賀県高島市議会議員
- ・中国電力島根原発(メッセージ)
芦原康江 元松江市議会議員

◎PPSからの電力購入実績調査(中間報告)

山下けいき 大阪府茨木市議会議員

**原発やめようニュース
反原発自治体議員・市民連盟**

NO. 29 2018年6月



**3.11で被災した東海第二原発の再稼働を止め、
「老朽原発廃炉」の流れを加速しよう**

東海第二が老朽原発の今後の試金石

東海第二原発は東京から110km、事故が起これば東京も被ばくを免れない、まさに首都圏の原発です。しかも東海第二は、福島第一原発と同じ沸騰水型で、3.11で被災し損傷した危険な老朽原発です。動かせば沸騰水型と老朽原発の再稼働を促進させる重大な転機となります。

東海第二原発がどこにあるのか、神田に本社がある日本原子力発電株式会社(原電)が経営危機にあること等全く知られていません。「止めよう！東海第二原発首都圏連絡会」の結成を機に、自治体議員・市民の取り組みを助け、「老朽原発廃炉」の流れを加速しましょう。

若狭の老朽原発再稼働を止めよう

反原発運動は、老朽原発を追い詰めてきました。電力会社と言えども原発を動かすためには安全対策を施さざるを得ず、多額の費用を要する老朽原発の廃炉を決断せざるを得なくなりました。昨年末には大飯原発1、2号機、伊方2号機の廃炉が決定しました。これで、福島事故以降に廃炉が決定した商業原発は9機になります。

しかし、規制委員会はすでに若狭の老朽原発高浜1、2号機と美浜3号機の再稼働を認めています。関西電力は、運転開始後40年を超える高浜1、2号機を2019年10月以降に、美浜3号

反原発自治体議員・市民連盟

共同代表 佐藤英行(北海道岩内町議会議員)
野口英一郎(鹿児島市議会議員)
福士敬子(元東京都議会議員)
武笠紀子(元千葉県松戸市議会議員)

〒168-0072
東京都杉並区高井戸東3-36-14-301
Tel/FAX 03-5936-0311
http://nonukesjapan.org/
郵便振替 00110-7-449067

機を2020年3月以降に再稼働を目論んでいます。東海第二とともに若狭の老朽原発との闘いが次の課題です。

近々重大事故が起きる確率高い老朽原発

原発は老朽化すると重大事故の確率が急増します。原発の圧力容器、配管等は長期に亘って高温、高圧、高放射線にさらされているため、脆化し、腐食が進んでいます。中でも、交換することが出来ない圧力容器は深刻です。最近、再稼働前後に事故が頻発しているのは、配管の減肉や腐食、電気配線の老朽化です。止めなければ重大事故につながるのです。

原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟 脱原発大賞 銀賞受賞

原自連顧問・小泉元総理から賞状を受け取る福士共同代表



東海第二原発・老朽原発の再稼働止めるため、現地と共に行動しました

村上元東海村長時代からの取り組みで、原電は30キロ圏6市村との協議と同意が必要に！



小川仙月さん(右)
相沢一正元東海村議

4月8日、反原発自治体議員・市民連盟から呼びかけ、「東海第二原発の再稼働に反対する茨城県自治体議員連盟」との共催で、シンポジウムと交流会を実現しました。相沢元東海村議(上写真)から、3月29日原電と東海第

二原発30キロ圏6市村との間で結ばれた新安全協定について報告を受けました。村上元村長も同席し、村長の時代に原発立地である東海村から周辺自治体に呼びかけ、6市村の協力で実現できた経過をお聞きしました。

続いて小川仙月さんが東海第二原発の危険性を、門間羽村市議から福島と東京から見た東海第二原発について、けしば杉並区議から30キロ圏自治体請願・要請行動の意義を報告。実りある議論がなされ、その後懇親会で交流を深め、新安全協定を手掛かりに、東海第二原発30キロ圏自治体への請願・要請などの共同の取り組みを確認しました。首都圏の力で東海第二原発を止めましょう。

全国自治体議員309名の連名で 東海村、水戸市など6市村に要請

4月12日、東京から4名の議員と阿部東海村議、民間規制委員会(東京)の市民2名が二手に分かれて、東海第二原発30キロ圏6市村への要請を行いました。

1班の担当は、日立市、常陸太田市、那珂市。2班は、水戸市、ひたちなか市を、東海村で二つは合流しました。常陸太田市では副市長が対応し、要請を受け取りました。那珂市では要請書は東海第二原発の再稼働には反対している海野市長に受け取っていただきました。

2班は、水戸市とひたちなか市に要請書を

提出しました。この行動にマスコミが注目し、水戸市には毎日新聞、共同通信が、那珂市では読売新聞、東海村には朝日、毎日、時事通信、共同通信が取材し、東京新聞からは電話での取材を受けました。翌日茨城版に全紙が掲載。どの自治体も部屋を用意し、丁寧な受け答えでした。わけても、避難計画が未だ十分なものではなく、課題のあることを認めました。全国から寄せられた賛同議員(3月11日付)309名の名簿を添付しました。



東海村長宛て要請書を提出。左は阿部功志議員



3.11で防潮堤を超え70cmまで津波が迫り、電源喪失寸前の危機を迎えた東海第二原発

大飯原発再稼働直後にもトラブルが発生！危険な老朽原発は止めよう

大飯原発3・4号機再稼働に抗議行動

関西電力(関電)は、3月14日に3号機、5月9日に4号機を再稼働させました。反原発の民意を踏みにじり、脱原発に向かう世界の流に逆らうものです。3月13日には現地行動に、100名が参加、14日は70名が参加し、大飯原発ゲート前の抗議行動と町内デモを行い、関西ブロックからも参加しました。

5月9日には、4号機の再稼働に抗議し100名参加、おおい町でのデモと原発ゲート前での抗議集会を行いました。連盟からは高木りゅうた高槻市議会議員と二木洋子さんが参加。高木市議が連盟を代表し、抗議と若狭の原発を止める決意を表明しました。

4号機再稼働後にトラブル発生

5月9日に再稼働した大飯原発4号機では、翌10日早速、蒸気発生器の水位計が異常を検知

したことを示す警報が鳴り、出力上昇が中断されたと報道されています。関電は、蒸気発生器(2次系)の水位は規定値内であり、水位計に問題はなかったとして、出力上昇を再開しました。しかし、関電の説明では、問題がなく正常な水位計が、水位に異常がないのに、警報を発したことになります。警報が鳴った理由は不明で、何かが隠されているとしか考えられません。

規制委員会の審査のずさんさと無責任

これで、福島事故以来再稼働した川内、高浜、伊方、玄海、大飯の5原発の全てが再稼働前後にトラブルを起こしたことになります。規制委員会が適合とした全ての原発がトラブルを起こした事実は、原発の再稼働にお墨付きを与えた新規制基準が極めて甘い基準であり、規制委員会の審査が無責任極まりないことを物語っています。

「とめよう！東海第二原発 首都圏連絡会」が結成されました



記者会見の様子

5月21日、「とめよう！東海第二原発 首都圏連絡会」の記者会見と結成集会が開催されました。連絡会は、東海第二の再稼働阻止を目指し、山梨を含む一都七県で参加を募り、再稼働阻止への気運を高めていく取組みに着手します。私たちもこれに賛同しました。

記者会見には、村上達也元東海村長や鎌田慧さんらが出席。鎌田さんは『東海第二原発は首都圏の原発だ。私たちの当面の最大の課題だ』と訴えられ、村上元村長は『最もぜい弱な土地に建った原発だ。規制委員会からも40mのクイを60mにせよと指摘されている』

『心強い会ができた。県内では(44市町村のうち)27の議会が再稼働などに反対の決議をした。最も動かしてはいけない原発だ』と述べられました。

集会では、千葉県安孫子市議会が20年延長を行わないことを求める意見書を採択したことが紹介され、日本原子力発電株式会社(原電)に再稼働撤回と廃炉を求める決議を採択しました。今後、原電と同社に資金援助を決めた東京電力、経済産業省、規制委への抗議を続け、署名集めなどにも取り組んでいくことが提案されました。



会場が満席となり、熱気にあふれた結成集会